

2013年度の研究報告

毛 桂 榮

1. 2013年度は、これまで行ってきた「行政」という用語と概念に関する研究を継続するとともに、「公務員」という用語と概念について調査をした。そのきっかけは、武藤博己ほか編『東アジアの公務員制度』の分担執筆に参加したことである（法政大学出版局、2013年3月、同書第2章所収、毛桂榮・白智立「中国の公務員制度」）。
2. 年度内の発表としては、次のよう論文がある。
 - (1) 「行政学と康有為：康有為『日本書目誌』「行政学」分類図書再考」、明治学院大学法学研究所年報29号、2013年8月、
 - (2) 「“行政”及“行政学”概念的形成：中国与日本」（中国語）、燕山大学（中国）『中国公共管理論叢』2013年第1期所収、1-19頁、2013年10月。
3. 「公務員」という用語と概念に関わって、集中的に資料を調査し、二つの論文の初稿を作成した。近く、公表する予定です。
 - (1) 「人民団体と公務員制：中国政治の一側面」、明治学院大学『法学研究』97号に掲載する予定、
 - (2) 「公務員という用語と概念をめぐって：日本と中国」、同『法学研究』98号に掲載する予定。
4. 「公務員」という用語と概念に関わる研究は、2013年9月14日に山西大学政治と公共管理学院主催の「日中地方政府ガバナンス改革国際シンポジウム」にて報告し、また同9月16日に、北京大学白智立教授の研究会でも報告した。さらに学内の共同研究でも同内容を報告した（2014年1月29日ほか）。そのPPTは、この年報に掲載された。
5. その他の共同研究への参加については、例えば「『中国的』新自由主義とミニマム公共サービスの提供」などを報告した。

(2014年3月)